

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 29 日現在

機関番号：14501

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24653226

研究課題名(和文) 社会人大学院生の学習特性・環境に適した教授法と研究指導方法の開発

研究課題名(英文) The development of research supervision for adult postgraduate students

研究代表者

近田 政博 (CHIKADA, MASAHIRO)

神戸大学・学内共同利用施設等・教授

研究者番号：80281062

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は社会人大学院生の学習特性・環境に適した教授法と研究指導方法の開発を行うことを目的とする。成人教育の理論枠組み(マルカム・ノールズの「アンドラゴジー」概念)を大学院教育に援用することにより、学習者の自発性や自律性を尊重する方法、学習者の職業・生活経験を学習資源として活用する方法などを明らかにする。これにより、大学院での研究指導の経験が少ない大学教員に対して、社会人大学院生の学位論文作成を支援するための方法論を提示したい。

研究成果の概要(英文)：The purpose of the study to develop the methodology on teaching and learning for postgraduate adult students. Focusing on the research supervision using the theoretical andragogy model, the study clarifies the methods to encourage students, the methods making use of their life experiences to learning resources. Consequently, the study shows the methodology to support adult students to make their dissertations.

研究分野：高等教育学、比較教育学

キーワード：成人教育 研究指導 教授法

1. 研究開始当初の背景

成人教育はこれまで学校教育とは切り離されて、スポーツや芸術活動など社会教育の文脈で語られることが多かった。同時に、今日の高等教育とくに大学院教育においても、社会人学生は大きなウエイトを占めている。

大学院就学者のうち社会人学生（平成 23 年 5 月 1 日現在において職に就いている者。ただし退職者や主婦等を含む）が占める割合は、平成 13 年度には 13.5%であったが、10 年後の平成 23 年度は 20.1%に増加している（『学校基本調査』平成 23 年度）。その内訳をみると、修士課程（博士前期課程）では 11.2%に対し、博士課程（博士後期課程）では 37.9%が社会人学生によって占められている。

大学・短大進学率がすでにユニバーサル段階（平成 23 年度は 56.7%、過年度進学含む）に達している日本では、社会人の多くがすでに大卒学歴を有しているため、彼らは高等教育機関での再学習の機会を大学院に求めることが一般的となっている。つまり日本の高等教育では、学士課程から修士課程、修士課程から博士課程へと、教育段階が上がるにつれて社会人学生の比率が大きくなる構図が存在する。

それにもかかわらず、これまで日本の大学で開発されてきた教授法は、高等学校からそのまま大学に進学する 20 歳前後の青年層に対する、大人数講義主体の学士課程教育をもっぱら対象としてきた。その前提は、彼らが高校までの受け身の学習習慣から脱却して、主体的かつ能動的な学習姿勢を形成するのを支援するという点にあった。ところが社会人学生の場合、もともと高い学習意欲をもって入学するケースが多く、一般的な大学教授法の前提は必ずしも噛み合わない。一方で、社会人学生に特有の課題については大学教員間で十分に共有されていないという課題がある。

2. 研究の目的

本研究は社会人大学院生の学習特性・環境に適した教授法と研究指導方法の開発を行うことを目的とする。成人教育の理論枠組み（マルカム・ノールズの「アンドラゴジー」概念）を大学院教育に援用することにより、学習者の自発性や自律性を尊重する方法、学習者の職業・生活経験を学習資源として活用する方法などをノウハウ化し、大学院での研究指導の経験が少ない大学教員が社会人大学院生と良好な関係を築き、学位論文の作成を促進するための方法論を提示したい。本研究の特色は、これまで社会教育の文脈で語られてきた成人教育の理論枠組みを、高等教育とくに大学院教育の教授法に援用することである。特に、個別的すぎて知見の共有化や理論化が難しいと考えられてきた学位論文作成などの研究指導方法について、社会人学生への指導に対象を絞って、その基本的な課題と対応方法を明らかにすることである。

本研究を遂行することにより、社会人大学院生に適した教授法や研究指導方法を開発することが期待できる。具体的には、学習者の自発性や自律性を尊重する方法、学習者の職業・生活経験を学習資源とするための工夫、学習成果を職場で実践することを支援する仕組みなどを明らかにし、ハンドブックの形で日本の大学院教員向けに提供することができる。これにより、教員と大学院生双方にとって、授業や研究指導の満足度および学習到達度を高めることを期待できる。

3. 研究の方法

本研究では、社会人大学院生の学習特性・環境に適した教授法と研究指導方法を開発することを目的とし、次の 3 つの段階をたどる。第一段階では、社会人大学院生すなわち成人学習者の学習特性について、生涯教育学、高等教育学、学習心理学等の研究知見を総合する。第二段階では、国内外（アメリカ、イギリス、日本）の大学院担当教員が、社会人大学院生を対象とする授業や研究指導においてどのような課題を抱えているかを、聞き取り調査（フォーカス・グループ・インタビュー形式）によって明らかにする。第三段階では、日本の大学に適した社会人大学院生の学習・研究環境に適した教授法および学位論文指導の基本セオリーを開発する。

本研究の方法論上の新規性は、ノールズが提唱した「アンドラゴジー」概念を従来型のインストラクショナル・デザイン(ID)モデルに援用し、社会人大学院生すなわち成人学習者に適合した教授法・研究指導法を見つけることにある。アンドラゴジーモデルによれば、成熟するにしたがって学習者の自己概念は依存的なパーソナリティから自己決定的なものへと変化し、発達や成長に伴って蓄積した経験が学習する上での貴重な資源となる。こうした成人学習者の特性を活かした教授法の開発は、社会人学生が大きなウエイトを占める日本の大学院教育にとって喫緊の課題となっている。本研究では文献調査やインタビューだけでなく、社会人大学院生の学習・研究活動への参与観察を実施した。

4. 研究成果

参与観察により、成人学習者にはノールズが指摘したような有利な点ばかりでなく、不利な点も少なくないことが明らかとなった。具体的には、a. 在職者の場合は学習・研究上の時間的制約が大きい、b. これまでの人生経験が時として柔軟な発想を妨げる、c. 他の大学院生と授業時間外での切磋琢磨する機会が限られる、などの点である。

これらの点を勘案すると、従来のような単線的・機能主義的な ID の枠組みだけでは、個別指導的かつ相互的、課題探求的な研究指導上の諸課題を解決することは難しいことが明らかとなった。具体的には、大学教員は社会人大学院生に対して、個人的な価値観を

押しつけない、長い時間的スパンで成長を見守る、職業経験がもつ先入観（バイアス）を取り除くなどの配慮が必要となった。

本研究の知見は日本人の社会人大学院生のみならず、外国人留学生の社会人学生に対しても一定の有効性をもちうるものであり、留学生固有の特性や研究指導上の留意点についてはさらに研究を進める必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

近田政博『学術論文の書き方入門』の授業実践 - 文章作成に対する学生の苦手意識は軽減できるか』『名古屋高等教育研究』第13号、名古屋大学高等教育研究センター、2013年、103-122。

近田政博、杉野竜美「アクティブラーニング型授業に対する大学生の認識」『大学教育研究』神戸大学 大学教育推進機構 23号、2015年、1-17。

[学会発表](計13件)

近田政博「大学教職員にとってのアカデミック・ライティング」東海・北陸・近畿地区学生指導研究会第59回総会、2015年5月21日、オリエンタルホテル(兵庫県)

近田政博「論理的思考を養うアカデミック・ライティングのあり方」第21回大学教育研究フォーラム、2015年3月13日、京都大学(京都府)

近田政博「大学教職員にとってのアクティブラーニング」高等教育研究者国際交流集会、2014年8月22日、華東師範大学(中華人民共和国・上海市)

近田政博「大学グローバル化時代に求められる教職員の能力開発」アカデミックソリューションセミナー2014、2014年7月25日、日比谷図書館(東京都)

近田政博「人文系ポスドク問題の本質は何か? - 大学にできる3つのこと -」日本哲学会第73回大会若手研究者支援ワークショップ、2014年6月29日、北海道大学(北海道)

近田政博「大学生に効果的な教授法」学術情報リテラシー教育担当者研修、2013年11月28日、国立情報学研究所(東京都)

近田政博「ラーニングコモンズにおける学習の形」大学教育学会第35回大会、2013年6月1日、東北大学(宮城県)

近田政博「大学院におけるFD入門」日本高等教育開発協会第3回フォーラム、2013年9月15日、京都産業大学(京都府)

近田政博「大学院における研究室教育の質保証を考える」第3回FD・SDセミナー、2013年1月28日、北陸先端科学技術大学院大学(石川県)

近田政博「大学生と大学教員に図書館をアピールする方法」2012年私立大学図書館協会西地区部会実務担当者研修会、2012年9月6日、名古屋大学(愛知県)

近田政博「名古屋大学における大学教員準備講座の取り組み」PFFP研究会:大学教員を育てる - 入職前と入植後の能力開発、2012年12月17日、京都大学東京オフィス(東京都)

近田政博「社会人学生はどのような教授法や研究指導を求めているか」日本高等教育開発協会第3回フォーラム、2012年8月31日、帝京大学(東京都)

近田政博「アカデミックライティングをどう組織するか」大学教育学会第34回大会、2012年5月27日、北海道大学(北海道)

[図書](計0件)

[産業財産権]
出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]

『名古屋大学新任教員ハンドブック(改訂版)』名古屋大学高等教育研究センター編、2014年1月20日
http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/publication/s/file/handbook_2014.pdf (2015年5月29日閲覧)

Nagoya University New Faculty Handbook,
名古屋大学高等教育研究センター他編,2012
年9月

[http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/support/file/
/NewFacultyHandbook_final.pdf](http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/support/file/NewFacultyHandbook_final.pdf)(2015年5
月29日閲覧)

『名古屋大学新任教員ハンドブック』名古屋
大学高等教育研究センター編,2012年3月30
日

『名古屋大学教員のための留学生受け入れ
ハンドブック』ウェブ版,名古屋大学高等教
育研究センター編,2012年8月31日

[http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/ryugakusei/
/](http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/ryugakusei/)(2015年5月29日閲覧)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

近田 政博 (CHIKADA, Masahiro)
神戸大学・大学教育推進機構・教授
研究者番号：80281062

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：